

極寒の霜月
～千尋とお酢とスマホ決済と～

大家好！大瀧東生です。中国に来てから3か月が経過しました。11月は中間テストで少し忙しい月となりましたが、何とか無事乗り越えることができました。秋はあっという間に過ぎ去り、太原市の冬は想像以上に寒くて驚いていますが、これを読んでいる皆様はいかがお過ごしでしょうか。僕は日本からあまり衣服を持ってこなかったのが、淘宝（タオバオ、中国のショッピングサイト）で慌てて冬服を購入することになりました（笑）。現在の気温は日本より10度以上低く、空気も非常に乾燥しています。先日短期滞在のビザが不要になり、今後日本からの観光客は増えると予想されますが、皆様も中国に来る際は本当にお気を付けください。

先日スピーキングのクラスで、自国の有名な歌の中国語版を歌ってみるという宿題がありました。私は映画『千と千尋の神隠し』の主題歌である『いつも何度でも』を歌いました。中国語タイトルは《千与千寻》（≡千と千尋）で、中国語に翻訳された主題歌は《亲爱的旅人啊》（≡親愛なる旅人よ）です。実際に自分で練習してみて気が付いたのは、普段あれほど声調に厳しい中国語は、歌になるとがらりと姿を変えらるということです。日常会話では声調が意味の理解に大きな影響をもたらしますが、歌になるとそのルールは消滅します。メロディーに合わせて歌詞を口にするため、四声を反映させることができないのだそうです。日本の映画や楽曲は中国を含めたアジア各国で広く知られているようで、クラスメートからも“我看过那部电影啊！（その映画見たことあるよ！）”“我听过这首歌呀！（この歌聞いたことある！）”と沢山言われ、なんだか嬉しい気持ちになりました。

また、先日外国語学院日本語専攻の先生が、山西省の郷土料理店に連れて行ってくださいました。特に印象的だったのが、山西省の人々はお酢が好きだということです。料理の多くに山西老陈醋（陈醋＝時間をかけて熟成された、醋＝お酢）という黒酢のようなものが使われていました。日本のお酢にはない、独特な深みのある香りと酸味が特徴です。この郷土料理店だけでなく、街中のレストランや学食等、ほぼ全ての飲食店に置いてあります（一方で、日本で一般的な米酢はあまり見かけません）。とても美味しいので、山西省に来たらぜひお試しください。食生活に関してはご紹介したいことが沢山あるので、また別の回でお話したいと思います。

余談ですが、中国が想像以上にスマホ社会であることをこの3か月間で痛感しました。街中でクレジットカードはほとんど利用できませんし、現金の取り扱いも非常に稀です（言えば対応してくれますが、全てのお店で可能なわけではありません）。日々の買い物や公共交通機関をはじめとして、生活費の支払いは全

てスマホで完結します。微信支付 Wēixìn zhīfù (≒WeChat Pay) や支付宝 Zhīfùbǎo (Alipay) をインストールしていないと生活ができず苦労しました。日本では、街中の市場や小さな商店でQR決済は利用できないことが多いですが、そのようなお店でもこの2つのどちらかで支払うことになります。お会計で財布を出さないのは不思議な感覚ですが、次第に慣れていきました。

今月の近況報告はここまでにしたと思います。今回もご覧いただきありがとうございました。それでは下个月見！

山西老陈醋を使ったクラゲの前菜（2枚目）



羊肉の焼き物（3枚目）/お酢、買っちゃいました（4枚目）

